

比内養護学校たかのす分校高等部 キャリア発達と関連づけた進路学習の年間指導計画

キャリア発達の段階	職業及び卒業後の家庭生活に必要なスキルを実際に働く生活を想定して具体的に適用するためのスキル獲得の時期	2・3年福祉的就労希望	2・3年一般就労希望	関連する進路活動
ね ら い	1年 ・身近な人たちの仕事や生活について知り、卒業後の生活に興味や関心をもつ。	2年 ・様々な仕事や自分の住む地域について知り、卒業後の進路に具体的なイメージをもつ。 ・社会人になるための経験を広げ、経験を通して自分の適性を考える。 3年 ・将来の生活設計について考え、自分の適性を踏まえ主体的に進路を選択する。 ・社会人として必要な知識やマナーを身に付け、卒業後の生活を具体的に考える。		
4月	進路学習オリエンテーション(2) 【人】協力・共同			
5月	自分の課題点(3) 【人】自己理解【将】習慣形成 働くことについて(22) 【人】場に応じた言動 【情】働くことの意義 【将】役割の理解と実行	1日の生活(3)【将】習慣形成 私のお気に入り～服装～(8) 【人】場に応じた言動【将】習慣形成【意】選択 第1回就業体験学習(1週間に2日・3週間) 【人】場に応じた言動【情】働くことの意義【将】役割の理解と実行	就職までのスケジュール(2)【将】進路計画	
6月	第1回校内・現場実習の事前学習(12) 【人】自己理解【情】働くことの意義【将】習慣形成【意】目標設定			進路相談 第1回校内・現場実習(2週間)
7月	第1回校内・現場実習の事後学習(6) 【人】自己理解【情】働くことの意義【意】肯定的な自己評価 私のお気に入り～趣味～(8) 【人】他者理解【将】習慣形成【意】選択			障害者技能競技大会
8月			給料の管理の仕方(1)【情】金銭管理	夏季休業中の現場実習(2週間)
9月	第2回就業体験学習(1週間に2日・3週間) 【人】場に応じた言動【情】働くことの意義【将】役割の理解と実行			
10月 11月	余暇を楽しもうⅠ(11) 【人】自己理解 【将】生きがい・やりがい 【意】選択(決定、責任)	社会でのルール(14) 【人】場に応じた言動 私のお気に入り～料理～(12) 【人】他者理解【人】協力・共同【意】選択	私たちが応援してくれる地域の機関(5) 【情】法や制度の理解 働く生活の実際(4) 【将】夢や希望 職業ガイダンス(1) 【情】働くことの意義 ビジネスマナーを知ろう1(4) 【人】場に応じた言動【人】自己理解	求職登録 第2回校内・現場実習(3週間)
12月	第2回校内・現場実習の事後学習(6) 【人】自己理解【情】働くことの意義【意】肯定的な自己評価			進路相談
1月	余暇を楽しもうⅡ(25) 【人】自己理解 【将】生きがい・やりがい 【意】目標設定	社会でのルール(12) 【情】金銭の管理 【情】社会のきまり 【将】習慣形成	様々な仕事(5) 【情】情報収集と活用 携帯電話の使い方(2) 【人】意思表示【情】消費生活の理解 様々なトラブルから身を守る(3)【情】法や制度の理解【意】自己調整【情】消費生活 私たちが応援してくれる地域の機関(1) 【情】法や制度の理解 卒業後の生活の場(6) 【将】役割の理解と実行 【将】進路計画 私たちが応援する制度(2)【情】法や制度の理解 給料の管理の仕方(2) 【情】消費生活の理解 ビジネスマナーを知ろう2(3)【人】場に応じた言動【人】自己理解	冬季休業中の現場実習(2週間)
2月	自分の成長をまとめよう(3) 【人】自己理解【将】進路計画【意】肯定的な自己評価			進路相談
3月	自分の成長や将来の夢についての発表会(2) 【意】目標設定			移行支援ケース会議(本人参加)

※たかのす分校高等部では、進路学習を1年、2・3年福祉的就労希望グループは生活単元学習として、2・3年一般就労希望グループは職業として教育課程上に位置付け、週に2時間特設して実施している。

※6領域の分類～内海(2004)の主張する進路学習の6領域に基づき、進路学習の単元を領域毎に色別に分類し表記した。

赤：職業・実習 緑：生活 オレンジ：余暇 青：自己理解・将来設計

※単元名の後の()内の数字は、各単元の時数を表している。

※キャリア発達にかかわる諸能力の領域～特別支援教育総合教育研究所作成の「知的障害のある児童生徒の『キャリア発達段階・内容表(試案)』」をもとに、各単元の中心的な視点となる項目を【人】：人間関係形成能力、【情】：情報活用能力、【将】：将来設計能力、【意】：意思決定能力の中から取り上げて表記した。